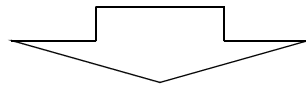


## 道徳教育充実のために速やかに取り組むべき事項（案）

### 【道徳の授業を魅力あるものにするために】

- 教員の姿勢や指導力等によって授業に極端な温度差や充実度の差が出ないような教材が必要。
- 小学校と中学校の実態の違いを踏まえて、発達段階に即した授業へと差別化を図る必要。例えば、中学校段階は、生命倫理、環境倫理、情報倫理などの教育課題に応じた内容も積極的に生かすなど、学習内容や方法のタイプについて差別化を図っていくことも選択肢の一つ。
- 主人公の気持ちを追っていくような発問が多くなる授業だと、中学生は、退屈してしまっている。子供たちの発達の段階を見極めた形で言語活動をうまく取り入れていく、又は、発問を工夫するということが、大事になってくるのではないか。
- 道徳用教材について、資料のスタイルの多様さを認めつつ、地域教材などと併存させながら活用できる環境を整備することがとりわけ大切。
- 「心のノート」を使って、いろいろな団体やボランティアをしている人を巻き込みながら取り組む方が、学校も楽になるし子供たちも楽しい。また地域でこういうことに関わりたい人を巻き込む機会にもなるのではないか。

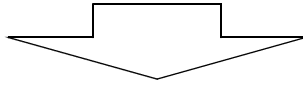


- 発達段階を踏まえた魅力的な道徳の授業方法の開発と周知が必要ではないか。
- 全面改訂版「心のノート」を用いた効果的な指導が各学校において展開されるよう、教師用の指導資料（冊子・映像資料）を作成・配布してはどうか。

### 【教員の指導力を高めるために】

- 道徳の時間の取組は、校長の取組方針や各教諭の姿勢によって温度差、充実度の差がある。校長が取組方針を明確にして、全教員の共通理解を図り、道徳の授業の改善・工夫に取り組むことが必要。
- 各学校の道徳教育を指導する立場にある者、各学校の道徳教育推進教師、道徳主任等に対する研修の充実が必要。学校を挙げての校内研修が重要。
- 指定校などへの財政的な支援や、道徳に余り目を向けていない学校への啓発も必要。

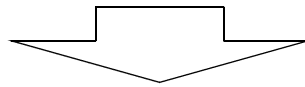
- 道徳の指導は教師全員がやるが、道徳の特質を踏まえると、それを補充していくために加配教員や特別な人に指導してもらう機会を設けるなどの配慮が必要。
- 「道徳教育推進教師」の意義を押さえ一層有効なものとするためにも、協力体制の要としての人材の実質的な確保のための措置が重要。
- 各都道府県では、3年周期くらいで全教員が道徳の研修を受けられるようにしてはどうか。



- 教育委員会の担当者、学校の管理職、道徳教育推進教師等を対象として、道徳教育の指導力を抜本的に向上させることを目的とした研修プログラムを開発するとともに、その受講の機会を設けることが必要ではないか。
- 地域の道徳教育の中核となる高い指導力を有する者の加配などの人的支援について検討してはどうか。

#### 【各自治体における特色ある取組の促進のために】

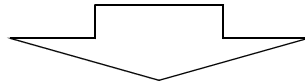
- 道徳用教材について、資料のスタイルの多様さを認めつつ、地域教材などと併存させながら活用できる環境を整備することがとりわけ大切。(再掲)
- 県独自の道徳教材を作成するとともに、「道徳教育推進校」として指定した小・中学校において、当該資料に基づいた授業公開・授業研究を行うことにより、教員相互の授業見学機会の増加や、それに伴う指導力の向上、児童生徒の好ましい変容にもつながった。
- 道徳教育フェスティバルのような取り組みを学校・家庭・地域が一体となって行ってはどうか。



- 各地域の学校において、児童生徒や学校の実態や地域の実情等を踏まえ、創意工夫を生かした特色ある道徳教育が展開されるよう、地域教材の作成や外部講師の活用などの取組に対する支援を充実してはどうか。

## 【保護者・地域の理解促進のために】

- 道徳教育を充実させるためには、家庭を巻き込むことが絶対に必要。
- 保護者を巻き込むため、公開授業や学校便りも活用しながら、保護者に道徳教育を理解してもらい、一緒に考えてもらうことが必要。
- 道徳は実践すべきで、地域社会や家庭でやっていくべきことについては、地域の団体としても担いつつ、両輪としてやっていきたい。
- 道徳教育を充実する新たな枠組みとしては、保護者や地域社会への説明責任を果たすことも考えるべき。
- 「心のノート」を使って、いろいろな団体やボランティアをしている人を巻き込みながら取り組む方が、学校も楽になるし子供たちも楽しい。また地域でこういうことに関わりたい人を巻き込む機会にもなるのではないか。（再掲）
- 道徳教育フェスティバルのような取り組みを学校・家庭・地域が一体となって行ってはどうか。（再掲）



- 学校・家庭・地域社会が連携した道徳教育を推進するためのきっかけともなるよう、学校関係者、保護者、地域住民等が集い、共に考えるイベント（例えば公開シンポジウムなど）を実施してはどうか。